

ISSN 1882-0468

ISSN-L 1882-0468

# NDL 書誌情報ニュースレター

## 2020年1号(通号52号)

### 目次

|  |    |
|--|----|
| 世界図書館・情報会議(第85回IFLA大会)・VIAF評議会会議報告<br>(収集・書誌調整課 村上一恵)                                    | 1  |
| コラム:NCR2018適用(2)典拠データの変更点<br>(収集・書誌調整課 書誌調整係)  | 9  |
| お知らせ:JAPAN/MARC MARC21フォーマット変更箇所一覧および『日本目録規則<br>2018年版』適用細則案等を公開しました<br>(収集・書誌調整課 書誌調整係) | 19 |
| お知らせ:国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス(Web NDL Authorities)のグ<br>ラフィカル表示を改善しました<br>(収集・書誌調整課 書誌調整係)  | 20 |

## 世界図書館・情報会議(第85回 IFLA 大会)・VIAF 評議会会議報告

### 【はじめに】

2019年8月24日から30日にかけて、「世界図書館・情報会議 (World Library and Information Congress : WLIC) : 第85回国際図書館連盟 (The International Federation of Library Associations and Institutions : IFLA) 年次大会」が、「図書館：変化への対話 (Libraries : Dialog for the change)」をテーマに、ギリシャのメガロン・アテネ国際会議場を主会場として開催されました。今回のWLICには、130以上の国・地域から、3300名以上が参加しました。このうち日本からの参加者は61名、国立国会図書館 (NDL) は羽入佐和子館長を団長とする代表団9名を派遣しました[1]。筆者は代表団の一人として、書誌分科会や関連するセッションに参加するとともに、8月23日に開催されたバーチャル国際典拠ファイル (Virtual International Authority File : VIAF) 評議会会議にも出席しました。以下、筆者が連絡委員を務めている書誌分科会を中心に、会議の概要をご報告します。[2]



図1 メガロン・アテネ国際会議場入口



図2 8月24日のWLIC会場のアテネ・カレッジ

### 1. 書誌分科会常任委員会

多くの分科会の常任委員会は、大会期間中に2回開催されます。筆者は、8月24日に行われた1回目の書誌分科会常任委員会で連絡委員[3]として承認を受けました。おもな議事は以下のとおりです[4]。

#### (1) 新議長の選出

IFLAの常任委員会は2年ごとに約半数の常任委員が改選となり、役員も交代となります。議長のMiriam Nauri氏 (スウェーデン・ストックホルム商科大学) が2期4年の任期満了となり、Mathilde Koskas氏 (フランス国立図書館) が新議長に選出されました。

## (2) 1年間の活動報告

近年の書誌分科会の主要なプロジェクトは、「コモンプラクティス (Common Practices for National Bibliographic Agencies)」の策定と[全国書誌登録簿](#) (National Bibliographic Register) の管理の二つです。

「コモンプラクティス」とは、2009年に刊行された『[デジタル時代の全国書誌:指針および新しい方向性 \(National Bibliographies in the Digital Age : Guidance and New Directions\)](#)』[5]の改訂版「[デジタル時代の全国書誌作成機関のためのベストプラクティス \(Best Practice for National Bibliographic Agencies in a Digital Age\)](#)」の後継にあたるものです。全国書誌に求められる要件は国によって大きく異なることから、規範となる「ベストプラクティス」ではなく「コモンプラクティス」として策定し、各国の事例も示すことを目指しています。全国書誌登録簿は、各国の全国書誌の概況を一覧にしたもので、2017年から2018年にかけて3か国、2019年に2か国の申請・新規登録が行われました。2019年8月現在、48か国が掲載されていますが、登録国をどのように増やしていくかが課題です。会議では、英語だけでなく様々な言語版の質問票を掲載してはどうか、などの提案が出されました。

## (3) 活動計画(Action plan)の検討

会期中の8月26日に「[IFLA戦略 \(IFLA Strategy 2019-2024\)](#)」[6]が公表されました。これに伴い、各常任委員会においてもこの新戦略に対応した活動計画の策定が求められました。書誌分科会では、戦略方針「2. 専門家としての取組みを促進・拡張する (Inspire and Enhance Professional Practice)」に紐づくキー・イニシアチブ「2.4 図書館業務をサポートするツールやインフラの提供」に対応する活動として、2018年から作成を進めている「コモンプラクティス」の公開と全国書誌登録簿の更新を活動計画に挙げることになりました。「コモンプラクティス」は、2020年春頃の公開を目指すことが了承されました。

そのほか、新規委員向けに分科会ホームページや分科会活動に参加する方法の説明などがあり、新規委員でも積極的に活動に参加できるよう工夫されていました。

全国書誌登録簿については、各分科会の議長らが参加した会議で「IFLAだけができる仕事」とのコメントがあったと紹介されました。また、全国書誌登録簿の統計では、無回答であった機関を除くすべての機関が何らかのMARCフォーマットで全国書誌を提供しており、国際的な書誌流通に寄与していくためにはMARCフォーマットでの書誌提供が今後も重要であるとわかりました。日本の全国書誌作成機関としてNDLも引き続き国際的な書誌コントロールに貢献していくことが重要であると感じました。

## 2. 目録分科会、主題分析・アクセス分科会常任委員会

---

目録分科会、主題分析・アクセス分科会は、書誌分科会とまとめてUBC (Universal Bibliographic Control : 国際書誌コントロール) セクションと呼ばれ、密接に結びついています。重複して報告される事項も多いため、2017年のWLICから毎年「IFLAメタデータレポート」と題してオープンセッションを共催し、各分科会や関連するワーキンググループの活動を報告しています[7]。お互いの分科会の常任委員会にオブザーバー参加するなど、交流も盛んです。筆者も目録分科会と主題分析・アクセス分科会の常任委員会に、オブザーバーとして参加しました。

8月24日に行われた目録分科会の1回目の常任委員会では、あらかじめ準備されていた会場に参加者が入りきらず、急遽大きな会議室に移動するほどで、目録(メタデータ)に対する国際的な関心の高さがうかがえました。「[国際目録原則覚書\(ICP\)](#)」[8]の改訂版については、2018年のWLICの際、目録分科会のレビューに先んじて上位組織であるIFLA専門委員会の[標準委員会](#)で承認されたため、公開前に目録分科会で確認を行うこととなっていました。そこで、常任委員会の場で各国からの指摘を反映した修正版が提示されました。今後これを分科会メンバー内で再確認したうえで確定・公開となる予定です。目録分科会メンバーの関心はすでに次の改訂に移りつつあり、リンクトデータに対応するために大改訂を行う方向性が示されました。目録をとりまく環境変化の速さを実感しました。

主題分析・アクセス分科会には、ジャンル・形式用語のワーキンググループ、主題分析・アクセスの自動化についてのワーキンググループがあり、それぞれ活発な調査研究を行っています。ジャンル・形式用語のワーキンググループは、今後どのように他の領域や次のプロジェクトにつなげていくか検討すべきであるという意見があり、ワーキンググループ事業の完了が予定される2021年に何らかの成果発表をする方向で作業を進めていくこととなりました。主題分析・アクセスの自動化についてのワーキンググループにおいては、自動化のユースケースについて調査を行うことが決まりました。

書誌分科会と同様、目録分科会、主題分析・アクセス分科会も議長が任期満了となり、目録分科会の新議長にVincent Boulet氏(フランス国立図書館)が、主題分析・アクセス分科会の新議長にAthena Salaba氏(米国・ケント州立大学)が就任しました。

### 3. オープンセッション

---

UBC セクションの三つの分科会に関連するオープンセッションなどにも参加しました。以下、特に印象に残った発表をいくつか紹介します。

標準委員会主催のオープンセッションでは、書誌概念モデル(Bibliographic Conceptual Model) レビューグループから、[FRBRoo](#)(オブジェクト指向型(object-oriented) FRBR) [9]の後継であるLRMooの検討状況について報告がありました。LRMooは、名前のおりオブジェクト指向型[IFLA LRM \(PDF : 2MB\)](#) [10]ですが、博物館・美術館のメタデータの基礎となる概念モデル[CIDOC CRM](#)(The CIDOC Conceptual Reference Model) [11]にも対応できるよう検討が進められています。また、ISBD レビューグループからは、2018年から4年計画で進められているISBD改訂の検討状況について報告がありました。2020年には4年計画の第1ステージが完了し、LRMの実体「**体現形**」部分を中心にISBDを対応させるとともに、現行のISBD統合版との差異を分析した成果物が公表される予定となっています。

目録分科会主催オープンセッションでは、OCLCによるリンクトデータ記述の試験プロジェクト「Project Passage」[12]についての報告や、イスラエル国立図書館の典拠データベース「NNL10」をEx Libris社の図書館システムAlmaを使用しているイスラエル国内の大学図書館や公共図書館も共通に利用できるようにするプロジ



ェクトなどが紹介されました。そのほかの発表でも、関係機関（あるいは利用者）がメタデータを共同で構築したり相互利用したりするプロジェクトが紹介され、複数機関の連携によってメタデータの利用可能性をより広げることができると感じました。

美術図書館分科会、主題分析・アクセス分科会共催オープンセッションは、図書館だけでなく博物館・美術館・文書館のメタデータに関する取組みが紹介されました。ロンドンの Warburg 研究所では、CIDOC CRM を基礎に、米国議会図書館が維持管理しているメタデータスキーマ「[MODS](#)」との相互運用を可能にした、写真コレクションのための XML ベースのメタデータの構築が行われています。図書館、文書館、博物館・美術館では、それぞれ異なる枠組みを使ってメタデータを構築してきました。館種を超えて相互運用性を高め、利用者が求める資料を容易に発見できるようにする取組みが、各国で進められています。

書誌分科会主催オープンセッション「書誌クリニック」は、書誌について「参加者みんなで教え、みんなで学ぶ」セッションとして企画されました。この中で最も印象深かったのは、スウェーデンの総合目録である「[Libris](#)」のデモです。リンクトデータ化のために、スウェーデン国立図書館のシステム担当が主導して、20年以上にわたって使用してきた [MARC 21 フォーマット](#) から [BIBFRAME](#) へ移行し、2018年6月に Libris を公開したとのことです。現在スウェーデン国立図書館では BIBFRAME をもとにした RDF でデータ入力し、リンクトデータとして提供すると同時に、大学図書館など MARC 21 フォーマットを使用している機関のために MARC 21 フォーマットでの提供も継続しています。また、オンラインヘルプを用意したり、研修教材を YouTube に掲載したりするなど、各機関が BIBFRAME へ容易に移行できるようにするためのサポート体制も充実しています。

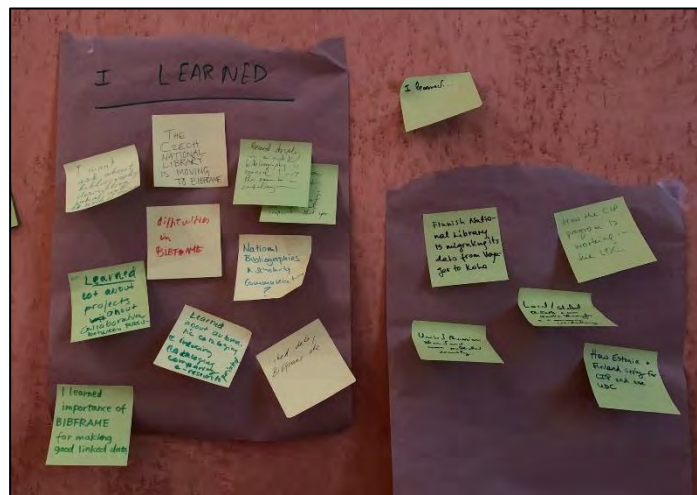


図3 「書誌クリニック」では、教えたこと・学んだことをみんなで付箋に書いて貼りました

#### 4. VIAF 評議会

[VIAF](#) 評議会会議は、8月23日にギリシャの国立図書館にて開催されました。2018年に開館した新しい国立図書館は、アテネ南部・カリテア地区の[スタブロス・ニアルコス財団文化センター \(SNFCC\)](#) 内にあります。SNFCC へはアテネ中心部から無料シャトルバスがあり、15分程度で到着します。おもな議題は以下の三つでした。

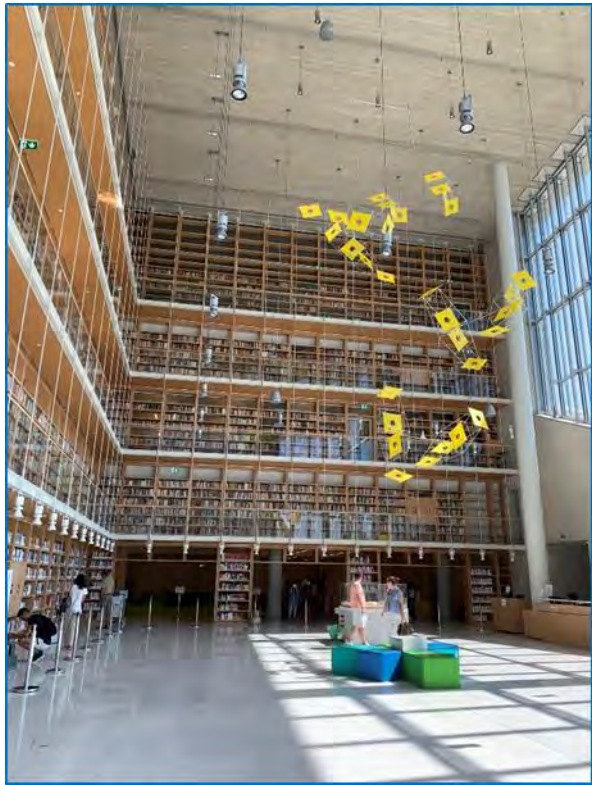


図4 ギリシャ新国立図書館



図5 アテネ中心部と SNFCC を結ぶシャトルバス

### (1) 議長、次期議長の選出

VIAF 評議会は1年ごとに議長が交代します。今年は、William Leonard 氏（カナダ国立図書館・文書館）に代わって Vincent Boulet 氏が議長に就任しました。さらに次期議長に Rania Osman 氏（エジプト・アレクサンドリア図書館）が選出されました。

### (2) VIAF の統計

VIAF を維持管理している OCLC の担当者から、最新の統計が報告されました。VIAF への参加機関数は 56 機関（前年比 3 機関増）、典拠データ数は前年比 13 パーセント増の約 7677 万件になりました。VIAF では、参加機関が提供した典拠データから同一の人物・団体などを機械的に判別してまとめ（クラスタリング）、一つの典拠であるかのように表示しています（これを「クラスター」といいます）。2018 年に全件を再クラスタリングした結果、約 3194 万件のクラスターとなり、再クラスタリング前に比べ、各機関の典拠がより少ない数のクラスターにまとまるようになりました。VIAF に搭載されている各国の典拠データのうち、日本語の典拠データは約 285 万件で、英語、ドイツ語、フランス語、ポーランド語に次いで第 5 位です。日本語の典拠データには、NDL から提供したもののほか、国立情報学研究所から提供された典拠データも含まれています。VIAF のウェブサイトへは月平均約 6 万 6000 ユーザー（前年比 110 パーセント増）が訪れ、1 回あたりのアクセス時間は平均 9 分です。

この 1 年間で新規参加した機関として、スロバキア国立図書館とアルゼンチン国立図書館の紹介がありました。また、参加に向けて協議中である機関として、チュニジア国立図書館と今回の会議のホストであるギリシャ国立図書館が紹介されました。

### (3) 個人情報保護ワーキンググループ活動報告

担当の Ricardo Santos Muñoz 氏（スペイン国立図書館）から、典拠データの個人情報保護についての調査結果が報告されました。EU が策定した一般データ保護規則（GDPR）への対応に関するアンケートについて、37 機関（うち国立図書館 18 機関）が回答しました。アンケートによると、大多数の機関が、著者などからの要求があった場合に典拠データから生没年や付記事項を削除しています。一方、半数以上の機関が典拠データそのものを削除するという要求を却下しているとのことでした。[13]

今後は、調査結果をふまえ、VIAF データの個人情報の取扱いに関する方針書とデータ訂正の要望を受けた際の処理手順（protocol）の策定に向けて、検討を行うことになりました。

そのほか、2020 年の WLIC において、「典拠とアイデンティティ管理の動向（Trends in authority and identity management）」というテーマについて、目録分科会との共催によるサテライトミーティング開催の提案がありました。これについては、8 月 26 日に開催された目録分科会常任委員会（2 回目）で、目録分科会からも承認されました。[14]

### 【おわりに】

---

2019 年の WLIC のテーマは「図書館：変化への対話」でした。書誌を含めたメタデータの世界では、図書館同士だけでなく、美術館や博物館、文書館などの類縁機関と「対話」し、これらの機関とも連携できるメタデータの構築が必要と感じました。また、利用者がメタデータを通じてその先の情報資源と「対話」しやすいメタデータにすることも、もちろん必要です。IFLA LRM は利用者タスクを基礎にして書誌概念モデルを再整理しており、この IFLA LRM をもとに、メタデータにかかわる標準の改訂が現在各分科会などで進んでいることがわかりました。NDL も、より利便性の高いメタデータ構築を目指して、国際動向を注視しつつ、関係機関と連携しながら検討を進めていきたいと思えます。

筆者は WLIC も VIAF 評議会も初めての参加でしたが、どの会議も新規参加者を快く迎える雰囲気、安心して参加することができました。各国の機関の担当者と直接「対話」することも、国際連携を深めるために重要だと感じました。

2020 年の WLIC は、「啓発する、関わる、可能にする、つなげる（Inspire, Engage, Enable, Connect）」をテーマに、8 月 15 日から 21 日にかけてアイルランドのダブリンで開催される予定です。VIAF 評議会は毎年 WLIC と同時期に開催されており、2020 年は目録分科会と共催のサテライトミーティングに合わせて開催される見込みです。





図6 ハドリアヌスの図書館前からアクロポリスを望む



図7 地下鉄駅内の遺跡展示

村上 一恵

(むらかみ かずえ 収集・書誌調整課)

[1] NDL 代表団全体の報告については以下をご覧ください。

第85回 IFLA 年次大会. 国立国会図書館月報. 2020.2, (706), p.6-11

[https://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo\\_11437005\\_po\\_geppo2002.pdf?contentNo=1#page=8](https://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_11437005_po_geppo2002.pdf?contentNo=1#page=8), (参照 2020-02-27).

また、2018年のWLIC参加報告については以下をご覧ください。

柴田洋子. 図書館の変革、社会の変革—世界図書館・情報会議(第84回 IFLA 大会). NDL 書誌情報ニューズレター. 2018年4号(通号47号).

[https://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo\\_11193726\\_po\\_2018\\_4.pdf?contentNo=1#page=1](https://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_11193726_po_2018_4.pdf?contentNo=1#page=1), (参照 2020-02-27).

[2] 2019年のWLICの発表資料の多くは、IFLAのリポジトリであるIFLA Libraryにアーカイブされています。

<http://library.ifla.org/view/conferences/2019/>, (参照 2020-02-27).

[3] 分科会役員の任期は2年、常任委員の任期は4年、連絡委員の任期は2年です。いずれも2期まで更新することができます。

[4] 書誌分科会常任委員会の議事録は以下に掲載されています。

IFLA Bibliography Section Standing Committee Business Meetings in Athens 2019 - Minutes

[https://www.ifla.org/files/assets/bibliography/bibliography\\_sc\\_wlic2019\\_minutes.pdf](https://www.ifla.org/files/assets/bibliography/bibliography_sc_wlic2019_minutes.pdf), (参照 2020-02-27).

[5] 日本語訳は以下に掲載されています。

デジタル時代の全国書誌: 指針および新しい方向性. 全国書誌のためのガイドラインに関するIFLA作業グループ, 2009,

<http://dl.ndl.go.jp/info:ndl.jp/pid/9454266>, (参照 2020-01-08).

[6] 「IFLA 戦略 2019-2024」については詳しくは、以下の記事をご覧ください。



渡邊由利子. 国際図書館連盟 (IFLA) の新たな戦略. カレントアウェアネス-E. 2019-12-05, (381), <https://current.ndl.go.jp/e2206>, (参照 2020-02-27) .

- [7] NDL からは、目録分科会に常任委員として、主題分析・アクセス分科会に連絡委員として各1名参加していません。
- [8] 日本語訳は以下に掲載されています。  
国際目録原則覚書. 2016年版(2017年改訂). IFLA 目録分科会、国際目録規則に関する IFLA 専門家会議, 2016, [https://www.ndl.go.jp/jp/data/basic\\_policy/international/pdf/icp\\_2016-jp.pdf](https://www.ndl.go.jp/jp/data/basic_policy/international/pdf/icp_2016-jp.pdf), (参照 2020-02-27) .
- [9] より正確には、FRBR (Functional Requirements for Bibliographic Records : 書誌レコードの機能要件)、FRAD (Functional Requirements for Authority Data : 典拠データの機能要件)、FRSAD (Functional Requirements for Subject Authority Data : 主題典拠データの機能要件) のオブジェクト指向版 (object-oriented version) です。
- [10] IFLA LRM (Library Reference Model) について詳しくは、以下をご覧ください。  
Pat Riva, Patrick Le Bœuf, Maja Žumer 著 ; 和中幹雄, 古川肇 訳者代表. IFLA 図書館参照モデル : 書誌情報の概念モデル, 樹村房, 2019.  
和中幹雄. 動向レビュー : IFLA Library Reference Model の概要. カレントアウェアネス. 2018-03-20, (335), <https://current.ndl.go.jp/ca1923>, (参照 2020-02-27) .
- [11] 国際博物館会議 (International Council of Museums : ICOM) の国際ドキュメンテーション委員会 (ICOM international committee for documentation : CIDOC) が維持管理している概念参照モデルです。
- [12] OCLC によるプロジェクト最終報告書は以下に掲載されています。  
Jean Godby ほか. Creating library linked data with Wikibase : lessons learned from Project Passage (OCLC research report) OCLC, 2019, <https://www.oclc.org/content/dam/research/publications/2019/oclcresearch-creating-library-linked-data-with-wikibase-project-passage.pdf>, (参照 2020-02-27) .
- [13] なお、NDL は、「国立国会図書館の書誌データにおける個人情報取扱要領」と「国立国会図書館の書誌データの修正に関する取扱い」にしたがって対応しています。  
国立国会図書館. “国立国会図書館の書誌データにおける個人情報取扱要領”. [https://www.ndl.go.jp/jp/data/basic\\_policy/policy/pdf/bib\\_personal.pdf](https://www.ndl.go.jp/jp/data/basic_policy/policy/pdf/bib_personal.pdf), (参照 2020-02-27) .  
国立国会図書館. “国立国会図書館の書誌データの修正に関する取扱い”. [https://www.ndl.go.jp/jp/data/basic\\_policy/policy/pdf/bib\\_modif.pdf](https://www.ndl.go.jp/jp/data/basic_policy/policy/pdf/bib_modif.pdf), (参照 2020-02-27) .
- [14] WLIC 終了後、このサテライトミーティングを 2020 年 8 月 13 日にアイルランドのダブリンで開催することが ILFA 本部により承認されました。

## コラム:NCR2018 適用(2) 典拠データの変更点

### 【はじめに】

国立国会図書館 (NDL) では、2021年1月から『[日本目録規則 2018年版](#)』(以下、「NCR2018」)の適用を開始します。この記事は、NCR2018適用に伴う書誌データ・典拠データのおもな変更点を紹介するコラムの第2回です。「[JAPAN/MARC MARC21 フォーマット](#)」の書誌データを扱った[第1回](#)(本誌前号)に続き、今回は典拠データのおもな変更点をご紹介します。また、番外として同時期に適用を開始するジャンル・形式用語についてもご紹介します。

NCR2018適用に伴い新規追加や運用変更が生じる「JAPAN/MARC MARC21 フォーマット」の変更箇所一覧を、NDLホームページ「[『日本目録規則 2018年版』\(NCR2018\)について](#)」に掲載しています。この記事とあわせて、ぜひご参照ください。

また、NCR2018適用開始に先立ち、NDLにおける適用方針を示す「国立国会図書館『日本目録規則 2018年版』適用細則(2021年1月)」(以下、「NCR2018適用細則」)および各種基準類の案を、同ホームページで公開しています。

典拠データの記録に関する基準(案)は、次の三つです。

- ・[著作に対する典拠形アクセス・ポイントの選択・形式基準\(2021年1月\)\(案\)\(PDF: 494KB\)](#)
- ・[個人に対する典拠形アクセス・ポイントの選択・形式基準\(2021年1月\)\(案\)\(PDF: 463KB\)](#)
- ・[団体に対する典拠形アクセス・ポイントの選択・形式基準\(2021年1月\)\(案\)\(PDF: 558KB\)](#)

以下、「アクセス・ポイント」は「AP」と略します。また、本記事における表現方法および用語については、以下をご参照ください。

### ●NCR2018 および「典拠形 AP の選択・形式基準」(案) との対応

本記事では、以下の表現方法を用いて、対応する NCR2018 および「典拠形 AP の選択・形式基準」(案)を示します。

- ・〈 〉内の語句および番号:「典拠形 AP の選択・形式基準」(案)の種類(著作、個人、団体)とその条項番号を示す。

[例]〈著作:5〉

- ・【 】で囲んだ#で始まる番号および語句: NCR2018 の条項番号および条項見出しを示す。

### ●タグおよびデータ例

本記事では、以下の表現方法を用いて、タグおよびデータ例(イメージ)を示します。

- ・フィールド識別子: 数字3桁で示す。
- ・インディケータ: 第1インディケータ、第2インディケータそれぞれを数字1文字で示す。データ例中では数字2桁で示す。

- ・サブフィールド識別子：サブフィールド開始文字を「\$」で、サブフィールド識別文字をアルファベットまたは数字1文字で示す。
- ・空白：インディケータおよびコード中の空白は「#」で、それ以外の空白は「△」で示す。

●おもな用語

NCR2018 では、『日本目録規則 1987 年版改訂 3 版』（以下、「NCR87R3」）で使用していた書誌や典拠の記録に関する用語の一部を変更しています。そのうち、本記事で使用するおもな用語の一覧を示します。

- ・フィールド識別子：数字 3 桁で示す。

| NCR87R3 の用語 | NCR2018 の用語 |
|-------------|-------------|
| 標目          | 典拠形 AP      |
| を見よ参照       | 異形 AP       |
| をも見よ参照      | (個人間などの) 関連 |
| 付記事項        | 識別要素        |

表 1 おもな用語

1. 適用対象など

(1) NCR2018 の適用対象

NCR2018 の適用対象は、2021 年 1 月以降に新規に作成する典拠データまたは 2021 年 1 月以降に典拠形 AP（従来の標目）の訂正を行う典拠データです。

現在、NDL では「個人名」、「家族名」、「団体名」、「地名」、「統一タイトル件名」、「普通件名」および件名に使用する「細目」の典拠データを作成しています。典拠データは、創作者等の名称典拠（従来の著者名典拠）と件名典拠に大別されます。個人、団体および一部の地名は、著者名典拠と件名典拠で同一の典拠データを使用しています。

これらの典拠データのうち、NCR2018 の適用対象となるのは、創作者等の名称典拠のうち、「個人名」、「団体名」です。件名典拠は、NCR2018 で主題を扱う章が保留（未刊）のため、適用対象とはなりません。また、NCR2018 には「家族」の規定がありますが、これまで NDL では「家族名」を著者名典拠として扱っておらず、当面は創作者等の名称典拠とすることもしないため、適用対象とはしません。

また、2021 年 1 月からは、NCR2018 で新たに典拠コントロールの対象に加わった「著作」の典拠（著作典拠）[1]を導入します。「著作」は、著作典拠と件名典拠（「統一タイトル件名」）で同一の典拠データを使用します。

(2) 2020 年 12 月以前に作成された典拠データの訂正

2020 年 12 月以前に作成された典拠データのうち、NCR2018 適用対象となる個人名、団体名および著作典拠については、以下の方針にしたがってデータを訂正して使用します。

### ●個人名典拠・団体名典拠

2021年1月以降に典拠形 AP (100/110 フィールド) の訂正を行う場合も、100/110 フィールド以外のフィールド・サブフィールドを2021年1月以降のルールにあわせて訂正することは、原則行いません。

### ●著作典拠

統一タイトル件名典拠がすでに存在する場合は、すべてのフィールドを著作典拠のルールにしたがって訂正し、著作典拠として使用します。

### (3) [JAPAN/MARC \(A\)](#) の収録対象

現在は、典拠データの機械可読版である JAPAN/MARC (A) には、著者名典拠 (創作者等の名称典拠) および固有名件名典拠、すなわち、「個人名」、「家族名」、「団体名」、「地名」、「統一タイトル件名」を収録しています。2021年1月からは、さらに著作典拠となる「著作」が収録対象に加わります。

なお、[国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス \(Web NDL Authorities\)](#) では、JAPAN/MARC (A) の収録対象に加え、「普通件名」および件名に使用する「細目」も提供しています。2021年1月からは、上記の「著作」のほか、後述の「ジャンル・形式用語」が加わります。

## 2. 個人名典拠・団体名典拠 (100/110 フィールドを持つ典拠) 【#6、#26 個人および#8、#28 団体】

---

個人名典拠および団体名典拠 (100・110 および関連するフィールド) における NCR2018 適用のおもな変更点は以下のとおりです。

- (1) 対象範囲
- (2) 個人に対する典拠形 AP (展開形 (100\$q) の新規追加)
- (3) 識別要素 (3XX) の新規追加
- (4) 関連指示子 (500\$i) の記録

### (1) 対象範囲

個人および団体に対する典拠形 AP の付与対象となる資料は、次のとおりです (ただし、アジア言語資料を除く)。

- ・国内で刊行された図書、単行の非図書資料、逐次刊行物 (団体のみ)、地図資料
- ・外国で刊行された和図書、和の単行の非図書資料、和の逐次刊行物 (団体のみ)、和の地図資料
- ・和古書

現在は、原則として、一つの役割表示に対して3番目までに含まれる個人または団体を著者標目としています。2021年1月以降は、単行の非図書資料 (録音・映像資料や電子資料など) は現行どおり一つの役割表示に対して3番目まで、それ以外の資料は著作に責任を有する創作者等に該当すると判断したすべての個人または団体を典拠形 AP とします[2]。



## (2) 個人に対する典拠形 AP (展開形 (100\$q) の新規追加) 〈個人：3〉【#26.1 典拠形 AP の構築】

個人に対する典拠形 AP (100 1#) には、個人の優先名称および識別要素を記録します。これまでも使用していたサブフィールド\$a (優先名称)、\$b (世系)、\$c (その他の識別要素)、\$d (生没年) に加え、新たに\$q (展開形) も使用するようになります。\$q を使用するのには、米国議会図書館 (LC) 典拠の名称を採用する場合があります。LC 典拠の 100\$a に名称のイニシャル、短縮形などが記録されており、\$q にその展開形 (フルスペル) が記録されている場合、これまでは展開形のみを 100\$a に記録していましたが、2021 年 1 月以降は、100\$a にイニシャル、短縮形などを記録し、\$q に展開形を記録するようになります。

[例] (2020 年 12 月以前) 100 1# \$a Lewis, Clive Staples,  
\$d 1898-1963

[例] (2021 年 1 月以降) 100 1# \$a Lewis, △C. △S.  
\$q (Clive△Staples),  
\$d 1898-1963

一方、団体に対する典拠形 AP (110) で使用するサブフィールドには、変更がありません。これまでと同様、サブフィールド\$a に団体の優先名称を記録します。優先名称に識別要素を付加する必要がある場合は、優先名称に続けて識別要素を丸がっこで囲んで記録します。なお、2021 年 1 月以降は、現在付記事項としている「設立年」、「所在地」および「書誌作成対象資料 (初出資料) の出版年 (月)」に加え、「廃止年」、「団体の種類」、「関係団体を示す語句」、「その他の識別語句」を、識別要素として優先名称に付加します。

## (3) 識別要素 (3XX) の新規追加 〈個人・団体：6〉【#6.3~#6.8、#8.3~#8.7 名称以外の識別要素】

識別要素 (従来の付記事項) は、典拠形 AP の一部として 100/110 フィールドに記録する場合 (優先名称に付加して記録する場合) と、それ以外のフィールドに記録する場合があります。

これまで 678 フィールド (来歴) に記録していた個人の「称号」、「活動分野」、「職業」および団体の「団体と結びつく場所」などの識別要素は、2021 年 1 月以降、それぞれ対応する 3XX に区別して記録します。特定の 3XX を使用することで、データ上もこれらの要素を区別できるようになります。なお、個人の「生年」・「没年」や「展開形」、団体の「設立年」・「廃止年」、「団体の種類」など、これまでどおり 678 フィールド (来歴) に記録するものもあります。

### ●個人

- ・称号 (368\$d) 〈個人：6-2〉

[例] 368 ## \$d Queen△of△Great△Britain

- ・活動分野 (372\$a) 〈個人：6-3〉

[例] 372 ## \$a 日本史

- ・職業 (374\$a) 〈個人：6-3〉

[例] 374 ## \$a 弁護士

●団体

- ・団体と結びつく場所 (370\$e) 〈団体：6-3〉

[例] 370 ## \$e 東京都中野区  
(団体の所在地)

- ・その他の識別語句 (368\$c) 〈団体：6-5〉

(4) 関連指示子 (500\$i) の記録 〈個人：5〉【#46.1 個人・家族・団体と個人との関連】

関連する個人名典拠同士を 500 フィールドで、団体名典拠同士を 510 フィールドでリンクして、個人間の関連または団体間の関連を示すのは、これまでどおりです。また、個人名典拠と団体名典拠をリンクしないのも変わりません。

500 フィールドで、新たにサブフィールド\$i に「本名」や「別名」などの関連の種類を示す関連指示子を、\$w (コントロール・サブフィールド) の値に\$i があることを示す“r”を記録します。

500 および 510 フィールドは、個人間の関連、団体間の関連のみでなく、著作と個人または団体との関連でも運用します。詳しくは、以下の「3. 著作典拠」(4)をご参照ください。

| 【2020年12月以前】   | 【2021年1月以降】   |
|--|---|
| <pre>100 1# \$6 880-01     \$a 片岡,△仁左衛門     \$b 13世,     \$d 1903-1994 500 1# \$6 880-02     [REDACTED]     \$a 片岡,△千代之助,     \$d 1903-1994     \$0 00027421</pre> | <pre>100 1# \$6 880-01     \$a 片岡,△仁左衛門     \$b 13世,     \$d 1903-1994 500 1# \$6 880-02     \$w r     \$i 本名     \$a 片岡,△千代之助,     \$d 1903-1994     \$0 00027421</pre> <div style="border: 1px solid orange; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>\$w r<br/>\$i 本名</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>\$wの値が“r”のとき<br/>関連指示子を\$iに記録</p> </div> |

図1 個人間の関連 (500 フィールド)

3. 著作典拠 (130 フィールドを持つ典拠) 【#4、#22 著作】

新たに導入する著作典拠のおもなポイントは以下のとおりです。

- (1) 使用フィールド（統一タイトルと同じ130フィールド）
- (2) 対象範囲
- (3) 識別要素（3XX）の記録
- (4) 創作者（500/510）の記録
- (5) 著作間の関連（530）の記録

**(1) 使用フィールド（統一タイトルと同じ130フィールド）**

著作の優先タイトルおよび識別要素は、統一タイトル件名と同じく、130フィールドに記録します。

なお、統一タイトル件名典拠がすでに存在する場合は、すべてのフィールドを著作典拠のルールにしたがって訂正し、著作典拠として使用します。

**(2) 対象範囲 〈著作：2〉**

次に該当する著作の典拠データを作成します（ただし、音楽作品、聖典、法令などを除きます）。

- a) 復刻・翻刻または現代語訳・口語訳された古典作品の原著作[3]
- b) 日本語訳のタイトルが複数存在する近現代の作品の原著作[4]

JAPAN/MARC (M/S) に収録される図書の書誌データを対象に、著作に対する典拠形 AP を付与し、著作の典拠データとリンクします。

| 著作典拠を作成する対象                    | 典拠形 AP として記録する著作の単位  | 典拠形 AP の付与対象（典拠データとリンクする書誌データ）      |
|--------------------------------|--|-------------------------------------|
| a) 復刻・翻刻または現代語訳・口語訳された古典作品の原著作 | 著作の全体<br>(例) 源氏物語  | 古典作品の復刻・翻刻または現代語訳・口語訳<br>(例) 謹訳源氏物語 |
| b) 日本語訳のタイトルが複数存在する近現代の作品の原著作  | リンクする書誌データが扱う著作の範囲に応じて、著作の全体または部分<br>(例1: 全体) The Chronicle of Narnia<br>(例2: 部分) The lion, the witch and the wardrobe | 近現代の作品の日本語訳                         |

表2 著作の対象

なお、著作の優先タイトル（130\$a）は、古典作品の場合は日本語で、近現代の作品の場合は原語で記録します[5]。

**(3) 識別要素（3XX）の記録 〈著作：6〉【#4.3～#4.7 タイトル以外の識別要素】**

識別要素は、典拠形 AP の一部として130フィールドに記録する場合（優先タイトルに付加して記録する場合）と、それ以外のフィールドに記録する場合があります。

典拠形 AP の一部として記録しない場合、以下の識別要素を、それぞれ対応する 3XX に区別して記録します。特定の 3XX を使用することで、データ上もこれらの要素を区別します。

- ・著作の日付 (388\$a)
- ・その他の識別要素 (381\$a)

**(4) 創作者 (500・510) の記録 〈著作：5-1〉【#44.1 著作と個人・家族・団体との関連】**

著作典拠と個人名典拠または団体名典拠をリンクして、著作と創作者との関連を示します。著作に責任を有する創作者（個人または団体）を 500 または 510 フィールドに記録し、サブフィールド \$w（コントロール・サブフィールド）に “r” を、\$i（関連の種類）にリンク先の個人または団体との関連を表す関連指示子（「著者」など）を記録します。一方、リンク先の個人または団体の典拠データの 530 フィールドには、著作の優先タイトル等を記録します。

| 【個人（創作者）】   | 【著作】  |
|---|---|
| 100 1# \$a Lewis,△Clive△Staples,<br>\$d 1898-1963                         | 130 #0 \$a The △ lion, △ the △ witch △ and △ the wardrobe<br>430 #0 \$6 880-01<br>\$a ライオンと魔女 |
| 400 1# \$a ルイス,△C.△S<br>400 1# \$a Lewis,△C.△S                            | 430 #0 \$6 880-02<br>\$a 魔女とライオンと子どもたち  |
| 530 #0 \$a The △ lion, △ the △ witch △ and △ the wardrobe<br>\$0 0XXXXXXX | 500 1# \$w r<br>\$i 著者<br>\$a Lewis,△Clive△Staples,<br>\$d 1898-1963<br>\$0 00447571          |

図2 著作と個人との関連 (500/530 フィールド)

なお、書誌データにおいては、著作の優先タイトルなどを 730 フィールドに、著作に責任を有する創作者などを 700/710 フィールドに記録します。



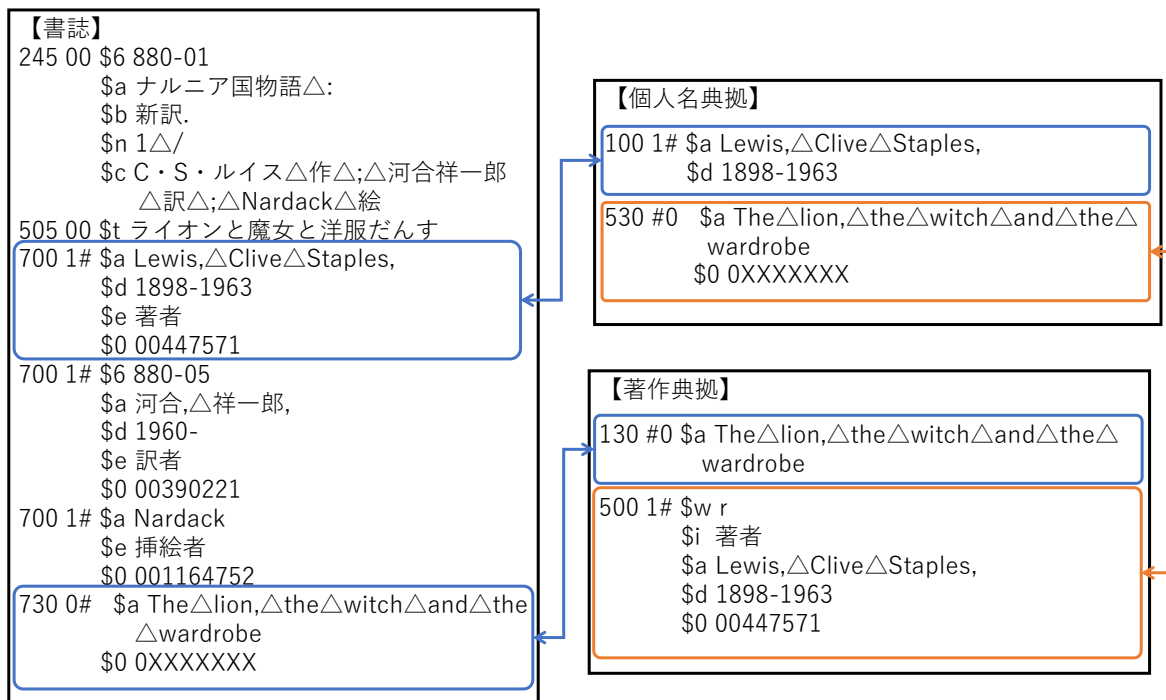


図3 書誌データにおける著作および創作者の記録

(5) 著作間の関連 (530) の記録 <著作: 5-2> 【#43.1 著作間の関連】

著作典拠同士が、著作の全体と部分といった上位・下位の関係にある場合、それぞれの 530 フィールドでリンクすることで著作間の関連を示します。サブフィールド \$w (コントロール・サブフィールド) に “r” を、\$i (関連の種類) にリンク先の著作との関連を表す関連指示子 (「上位」または「下位」) を記録します。

| 【著作（上位）】   |  | 【著作（下位）】   |  |
|------------|--|------------|--|
| 130 #0 \$a | The△Chronicle△of△Narnia                        | 130 #0 \$a | The △ lion, △ the △ witch △ and △ the wardrobe |
| 430 #0 \$6 | 880-01   | 430 #0 \$6 | 880-01   |
| \$a        | ナルニア国物語  | \$a        | ライオンと魔女  |
| 430 #0 \$6 | 880-02   | 430 #0 \$6 | 880-02   |
| \$a        | ナルニア国ものがたり                                     | \$a        | 魔女とライオンと子どもたち                                  |
| 500 1# \$w | r  | 500 1# \$w | r  |
| \$i        | 著者   | \$i        | 著者   |
| \$a        | Lewis,△Clive△Staples,                          | \$a        | Lewis,△Clive△Staples,                          |
| \$d        | 1898-1963                                      | \$d        | 1898-1963                                      |
| \$0        | 00447571                                       | \$0        | 00447571                                       |
| 530 #0 \$w | r  | 530 #0 \$w | r  |
| \$i        | 下位   | \$i        | 上位   |
| \$a        | The △ lion, △ the △ witch △ and △ the wardrobe | \$a        | The△Chronicle△of△Narnia                        |
| \$0        | 0XXXXXXX                                       | \$0        | 01026108                                       |

図4 著作間の関連

【番外 ジャンル・形式用語】

NCR2018には規定されていませんが、2021年1月からジャンル・形式用語典拠を導入します。件名典拠が、資料が取り扱っている主題を表すのに対し、ジャンル・形式用語典拠は、フィクションなどの内容の類型や様式を表します。たとえば、普通件名「漫画」の付与対象が、漫画技法の解説や漫画について研究・評論した本など、漫画をテーマとした資料の書誌データであるのに対し、ジャンル・形式用語「漫画」は、漫画そのものの書誌データを対象に付与します。

これまで、日本十進分類法（NDC）や国立国会図書館分類表（NDLC）によって、漫画などの資料の形式の一部を書誌データ上で表してはいましたが、内容類型や様式を数字やアルファベットで表現する分類では、その意味を容易に把握できる形で表現できていたとは言えませんでした。ジャンル・形式用語典拠の導入によって、利用者にとってもわかりやすい語句で、資料のジャンルや形式の特定ができるようになります。

ジャンル・形式用語の典拠形 AP は、書誌データの 655 フィールドに記録します。

まずは、「漫画」、「児童図書」、「LLブック」[6]、「議会資料」の4つのジャンル・形式用語を導入します。当初は限られた用語を導入し、将来的には用語の拡大を検討します。ジャンル・形式用語は、普通件名や細目と同様、JAPAN/MARC（A）の収録対象には含めず、Web NDL Authorities で RDF/XML 形式などで提供を行います。

## 【おわりに】

---

この記事では、NCR2018 適用後の「JAPAN/MARC MARC21 フォーマット」における典拠データのおもな変更点をご紹介します。もっとも大きなポイントは、NCR2018 で新たに規定された著作典拠の導入です。また、著作と創作者（個人または団体）との関連を示すために、これまで行っていなかった、種別の異なる典拠データ間の相互リンクを行うことにします。

新たな試みとなる著作典拠およびジャンル・形式用語典拠については、どのように運用していくか、適用対象の拡大も含め、2021年1月以降も、引き続き検討を行っていく必要があると考えています。

典拠コントロールは、資料を発見したい、特定の資料や個人・団体を識別したいという利用者ニーズに応えるためのものです。NCR2018 適用を通じて、NDL の典拠データが利用者のみなさまのニーズに、より一層応えられるものとなることを願っています。

(収集・書誌調整課 書誌調整係)

## 脚注

[1] 著作については下記の記事もご参考にしてください。

What's 書誌調整 ふたたび(第12回)新しい『日本目録規則』(NCR2018年版)の特徴. 国立国会図書館月報. 2018. 11, (691), p. 21-25

[https://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo\\_11174776\\_po\\_geppo1811.pdf?contentNo=1#page=23](https://dl.ndl.go.jp/view/download/digidepo_11174776_po_geppo1811.pdf?contentNo=1#page=23), (参照 2020-01-30)

[2] 和図書では2020年4月から、試行的に4番目以降の役割表示に対しても著者標目の付与を開始します。

[3] 古典作品とは、原語が日本語の場合は慶応4年以前、中国語の場合は宣統3年以前（韓国・朝鮮語の場合もこれに準ずる）、それら以外の言語の場合は1830年以前に成立したものとします（ただし、外国の作品の復刻・翻刻および外国の作品が日本語以外の言語にのみ翻訳されている場合を除く）。

[4] 近現代の作品とは、原語が日本語の場合は明治元年以後、中国語の場合は宣統4年以後（韓国・朝鮮語の場合もこれに準ずる）、それら以外の言語の場合は1831年以後に成立したものとします。

[5] ただし、原語のタイトルの表示形が、漢字（繁体字または中国簡化文字を含む）、仮名、ラテン文字、キリル文字、ギリシャ文字以外の場合、日本語のタイトルを選択します。

[6] LLブックとは、短い文章やイラストや写真などを使って、知的障害などにより言語理解に困難がある方や日本語を学習中の方にも理解しやすいように工夫された本のことです。

## お知らせ：JAPAN/MARC MARC21 フォーマット変更箇所一覧および

### 『日本目録規則 2018 年版』適用細則案等を公開しました

国立国会図書館では、2021年1月からの『日本目録規則 2018 年版』の適用開始を目指し、その適用細則や関連する基準などの作成作業を進めています。2019年10月公開分に続き、2020年1月に、以下の適用細則および基準の案を公開しました。

また、「JAPAN/MARC MARC21 フォーマット」のうち、『日本目録規則 2018 年版』適用に伴い、フィールド・サブフィールドなどの運用変更が生じる箇所についても一覧を公開しています。

#### ●『日本目録規則 2018 年版』適用細則（2021年1月）（案）

- ・「第3部 関連」
- ・「付録 C.1 関連指示子：資料に関するその他の関連、C.2 関連指示子：資料と個人・家族・団体との関連、C.4 関連指示子：個人・家族・団体の間の関連」

#### ●アクセス・ポイントの選択・形式基準（2021年1月）（案）

- ・著作に対する典拠形アクセス・ポイント
- ・個人に対する典拠形アクセス・ポイント
- ・団体に対する典拠形アクセス・ポイント
- ・体現形に対する非統制形アクセス・ポイント（タイトル）

#### ●JAPAN/MARC MARC21 フォーマット変更箇所一覧（2021年1月）

- ・単行・逐次刊行資料編
- ・典拠編

なお、上記以外の適用細則案なども、順次、公開予定です。

詳しくは、以下のページをご覧ください。

#### [日本目録規則 2018 年版（NCR2018）について](#)

2019年10月に公開した適用細則および基準の案については、[本誌前号](#)で紹介しています。

また、本誌今号の「コラム：NCR2018 適用（2）典拠データの変更点」では、『日本目録規則 2018 年版』適用に伴う「JAPAN/MARC MARC21 フォーマット」における典拠データの変更点について紹介しています。あわせてご覧ください。

（収集・書誌調整課 書誌調整係）



## お知らせ：国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス(Web NDL

### Authorities)のグラフィカル表示を改善しました

2020年2月、[国立国会図書館典拠データ検索・提供サービス \(Web NDL Authorities\)](#) の詳細情報画面のグラフィカル表示を改善しました。

グラフィカル表示とは、詳細情報表示中の典拠データに上位語・下位語・関連語のいずれかが含まれている場合に表示することができる機能です。グラフィカル表示のタブに切り替えると、図のとおり上位語・下位語・関連語といったシソーラス構造を、視覚的にわかりやすい図で表示することができます。

今回、このグラフィカル表示について、[ウェブアクセシビリティ](#)の観点から、色の違いによらず識別できるように、上位語・下位語・関連語の項目ごとに枠線の種類を変更しました。上位語は実線、下位語は粗い点線、関連語は細かい点線でそれぞれ区別して表現されます。

探したい普通件名をうまく見つけられないとき、関連する普通件名を調べたいときなどに、近いテーマの普通件名の詳細情報画面でグラフィカル表示のタブに切り替えると、周辺にどのような普通件名が紐づけられているのかを視覚的に把握することができます。より適切な普通件名を発見するためのツールとして、グラフィカル表示をぜひご利用ください。

#### 蔬菜

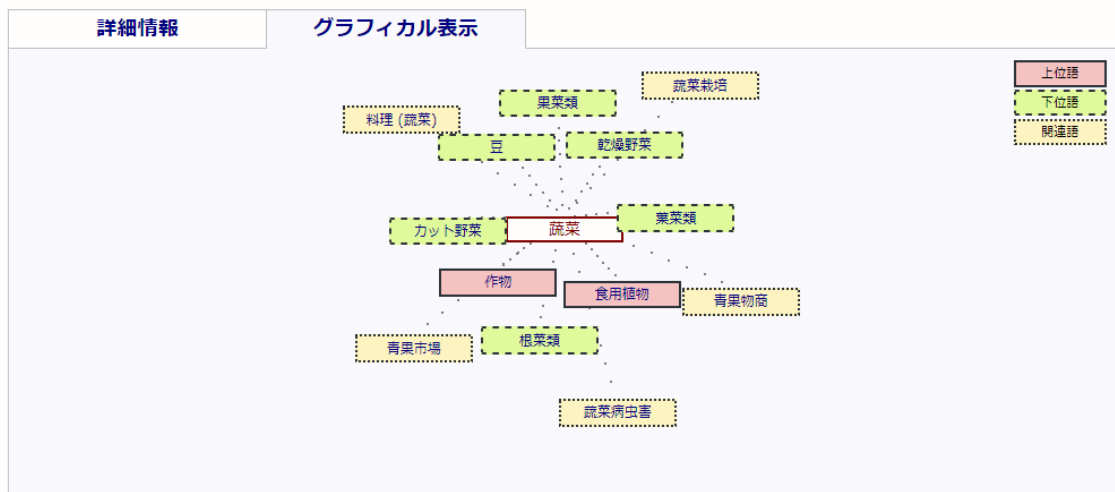


図 Web NDL Authorities グラフィカル表示

(収集・書誌調整課 書誌調整係)

**NDL 書誌情報ニューズレター(年4回刊)**

2020年1号(通号52号) 2020年3月27日発行

編集・発行 国立国会図書館収集書誌部

〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1

E-mail: [bib-news@ndl.go.jp](mailto:bib-news@ndl.go.jp) (ニューズレター編集担当)